

Ryukyu wild boar / *Sus scrofa riukiuanus* / Ryukyu inoshishi / リュウキュウイノシシ

リュウキュウイノシシは、奄美大島最大の哺乳類で、内地に生息するイノシシの固有亜種である。内地のイノシシ同様、全身茶色い毛で覆われているが、体重は 50～60kg で、通常 100kg のイノシシよりかなり小さい。これはベルクマンの法則に沿ったもので、温暖な地域では小型化するというものである。リュウキュウイノシシの牙は本土のイノシシに比べて目立たず、口の端から突き出てはいない。また、北部の亜種と違い、年に 2 回、春と秋に繁殖する。主に森林に生息し、木の実や根っこ、ヘビやネズミなど、さまざまな動植物を食べている。奄美大島の島民はイノシシを縄文時代(10,000–300 BCE)から食していたことが確認され、今でも島では行事などで振る舞われることもある。